

鳥インフルエンザ 防疫作業動員者の皆様へ ～発生農場へ派遣される方へのしおり～

～ 目 次 ～

○防疫作業の流れ	・・・・・・・・	1
○発生農場の防疫作業手順	・・・・・・・・	4
○農場拠点での防護服等の着衣手順	・・・・・・・・	12
○作業後の防護服等の脱衣手順	・・・・・・・・	13
○健康調査問診票	・・・・・・・・	14
○体温記録用紙	・・・・・・・・	15

長崎県

防疫作業の流れ

1 県庁、振興局等の集合場所

- 所属から指定された時間と場所に集合ください。
- 担当者のチェックを受けてから、バスに乗車ください。
- バス乗車中に、問診票は後方支援センター到着前に記入ください。

2 動員者の工程

所属から指定された場所に集合したのち、バスで「後方支援センター」（発生地域の体育館や公民館など）へ移動します。

「後方支援センター」では、受付後、健康調査や着替え、作業説明を受けます。

その後、バス等で「農場拠点」（発生農場隣接地に設置）へ移動します。

「農場拠点」で、マスク、ゴーグル、手袋、長靴などを着用後、農場へ移動し、作業を行います。

4時間「農場」で作業し、農場での作業後は、「農場拠点」で消毒等を行ってから、バス等で「後方支援センター」へ戻ります。

「後方支援センター」で、必要に応じ健康調査を受けた後、荷物を受け取り、着替えを済ませて、バスで各発着地に戻ります。

3 派遣の前後

● 派遣前の準備

服 装 作業着や運動着など作業しやすい服装で集合してください。日頃から準備をお願いします。

防 寒 着 冬季や夜間は冷え込むため、厚手の靴下等の準備をお願いします。

食事・飲み物 「後方支援センター」に用意します。

着 替 え 汗や消毒で濡れる恐れがありますので、帰宅時用の着替えの用意をお願いします（「後方支援センター」の「手荷物（私物）預かり場所」にてお預かりします）。

貴 重 品 農場内に持ち込んだ物は、汚染物品として処分されます。農場内に個人の物（携帯電話等）は持ち込めません。貴重品はできるだけ持ってこないようにしてください。荷物は「後方支援センター」の「手荷物（私物）預かり場所」にてお預かりします。

● 帰宅後の留意事項

解 散 後 速やかに帰宅し、入浴、洗髪してください。衣服も直ちに洗濯してください。次の派遣に備えて休息をお取りください。

終 了 後 作業後7日間は、鶏等の家きん類や鳥類に接触しないでください。

健 康 観 察 作業後10日間（潜伏期間）は、体温、健康状態を記録してください。期間中に体調に異常がある場合は、直接病院を受診せず、必ず、最寄りの保健所に連絡し、指示に従ってください。

4 健康調査

● 事前の確認

- 日頃から健康不安を抱えている方、家きん（ペットを含む）を飼養する方、防疫作業従事者除外基準に該当する方は、防疫作業に従事できません（事前スクリーニング）。

家きん：鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥

< 防疫作業従事者除外基準 >

- ・慢性心疾患で通院加療中の者
- ・慢性呼吸器疾患で通院加療中の者（喘息を含む）
- ・慢性腎疾患の者
- ・免疫機能不全の者
- ・鳥アレルギーの者
- ・アルコール禁忌の者
- ・医師から重度の肉体労働を止められている者

● 派遣前の体調確認

- 派遣に際して、次の方は農場内の防疫作業の対象となりませんので、あらかじめ、所属で確認を受けてください。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ < 1次スクリーニング >

- ・妊娠されている方
- ・当日、体温 37.5 以上の方、また、明らかに体調不良の方

● 後方支援センターでの健康調査

- ・問診票の記入（後方支援センター到着前に記入）
- ・体温
- ・問診票チェック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ < 2次スクリーニング >
- ・必要な場合は医師の診察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ < 3次スクリーニング >

健康調査の結果、農場での防疫作業に従事できない場合は、後方支援センターなどでの作業に従事していただくか、またはお帰りいただくことがありますのでご了承ください。

5 各工程での留意事項

● 「後方支援センター」（作業前）

- 事前に自宅等で検温し、原則として長崎県電子申請システムの「鳥インフルエンザ防疫作業従事者問診票」により、防疫作業従事開始予定時刻の3時間前までに問診票を提出してください。

（サイトアドレス）

https://apply.e-tumo.jp/pref-nagasaki-u/offer/offerList_detail?tempSeq=4093



（QRコード）

- 受付後、健康調査を受けてください。
- 防護服等は、サイズを確認して受け取ってください。
- 受け取った防護服（2枚重ね着）とサンダルを所定の着用場所で着用してください。
- 外側の防護服の前後には、氏名等をマジックペンで記入してください。

- 着てきた衣類・くつや携帯品、着替え等の荷物は、所属・氏名を記入したビニール袋に入れて、「手荷物（私物）預かり所」にお預けください。
- 防疫作業に関する説明を受けてください。
- 「後方支援センター」で用を済ませておいてください。

●「農場拠点」（作業前）

- 農場作業に入る前に用を済ませておいてください。
- マスク、ゴーグル等を受け取ってください。
- 防護服等は、定められた方法で正しく着用してください。鳥インフルエンザウイルスから身を守ると同時に、ウイルスを付着して農場外に出ることのないように厳重にお願いします。
- 農場拠点責任者（家畜防疫員）の指示により、作業班ごとにまとまって行動してください。

●「農場内」作業

- 作業前に、農場拠点責任者もしくは殺処分班長から作業内容の指示があります。作業内容等は、「鳥インフルエンザ発生農場の防疫作業手順」をご確認ください。
- 作業の進捗状況によっては、内容や時間を変更する場合があります。
- 感染防止のため、ゴーグルやマスク、手袋等を外したり脱いだりしないでください。
- 農場内では、重機や車両も一緒に作業をするため、重機等の動きに十分注意してください。
- 原則として、作業中は発生農場から出られません。トイレや作業中の怪我、気分や体調が悪くなった場合や防護服等の破損・不備があった場合は、速やかに殺処分班長に申し出て、指示に従ってください。
- 目安として作業 1 時間おきに農場内での休憩時間を設けます。
- トイレは農場外の農場拠点に設置しますが、利用者が集中しないように、作業中に用を足したくなった場合は、その都度、所属する班の班長（殺処分班（又は農場清掃消毒班、埋却地班））に申し出てください。
- 農場再入場時には、防護服等を手順に従って着用して再入場します。

●「農場」退場時（作業終了後）

- 農場出口の消毒場所で、消毒係から全身の消毒を受けてください。特に、長靴は靴底まで入念に消毒してください。

●「農場拠点」（作業終了後）

- 「農場拠点」手前の脱衣エリアで、手順に沿って、ゴーグル、マスク、キャップ、防護服、手袋、長靴を脱ぎます。
- 移動用の防護服を着用し、サンダルを履き、バス等で「後方支援センター」へ移動します。

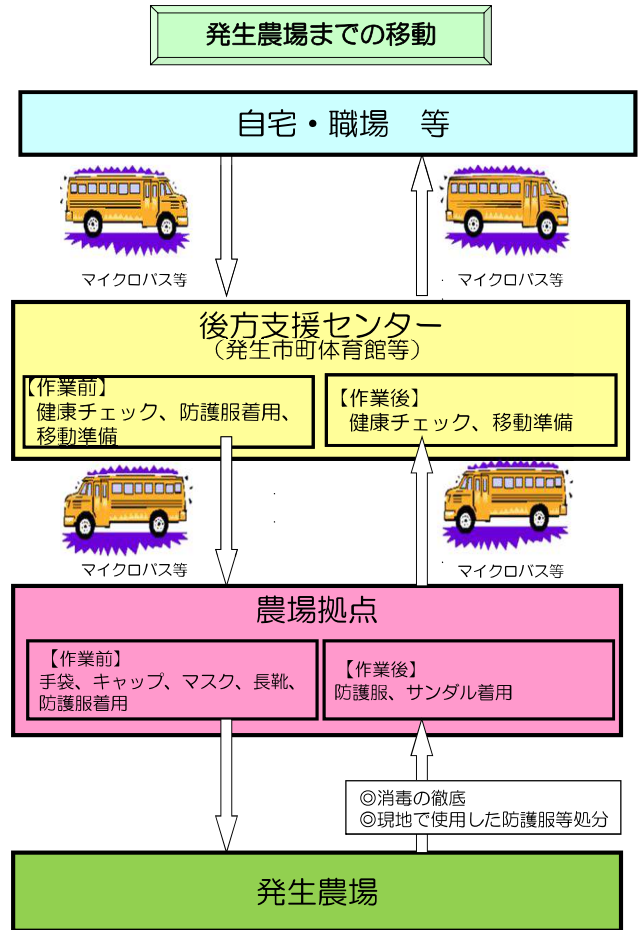
●「後方支援センター」（作業終了後）

- カップラーメン等を用意していますので、ご自由にお召し上がりください（持ち帰り可）。
- 特に指示がない限り、問診及び診察を受ける必要はありません。
- 預けていた私物を確認し受け取り、身の回りを整理して帰宅の準備をします。
- 着替えた衣類などはビニール袋に入れて持ち帰り、直ちに洗濯してください。
- 担当者の案内に従い、バスで、各出発地へ戻ります。

長崎県鳥インフルエンザ発生時対応マニュアルに基づく

鳥インフルエンザ発生農場の防疫作業手順

長崎県



後方支援センター



- ①受付
- ②体温測定、問診による健康診断（注）。
- ③健康調査
- ④当日の作業内容の説明を受ける。
- ⑤防護服に着換え（2枚着用）、サンダルに履き替える。

注：事前に配布した問診票に可能な限り記入し持参



※着ていた着衣や携帯品（携帯電話等）を袋に入れ手荷物預かり場所（受付係）に預ける。



農場拠点

バス等で発生農場の側に設置した農場拠点へ移動

○ 後方支援センターでの防護服等への名前記入



・外側の防護服の前と後にマジックで名前を記入



・着てきた衣類や携帯品などを入れる袋に名前を記入



○ 後方支援センターでの防護服の着衣



☆ 防護服を着る
※防護服の中は作業後噴霧消毒可能な軽装作業衣が望ましい。



☆衣類や携帯品（携帯電話等）は袋に入れ、後方支援センターの手荷物（私物）預り（受付係）に預ける。
※ウイルスの拡散防止のため農場拠点に持ち込む物品は必要最小限に。

サンダルを履き農場拠点へ移動

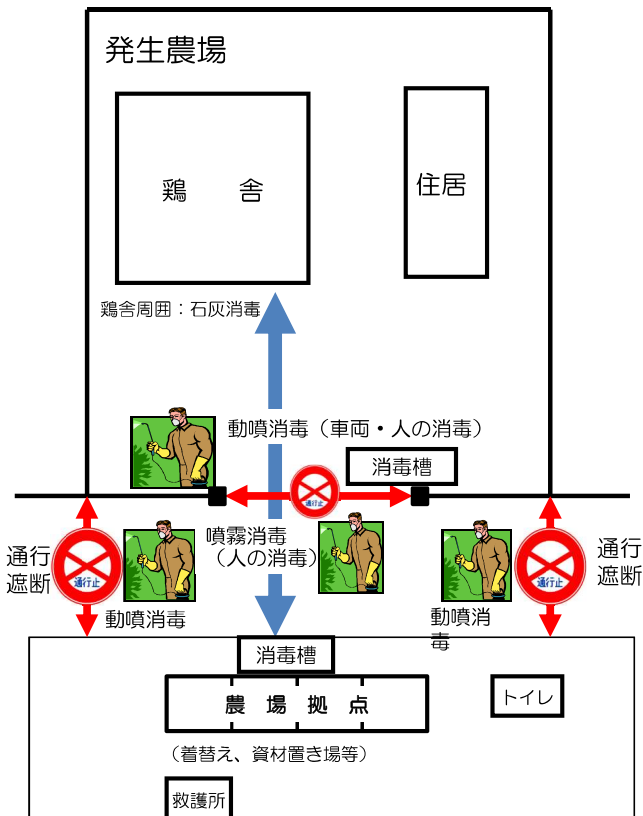
農場拠点



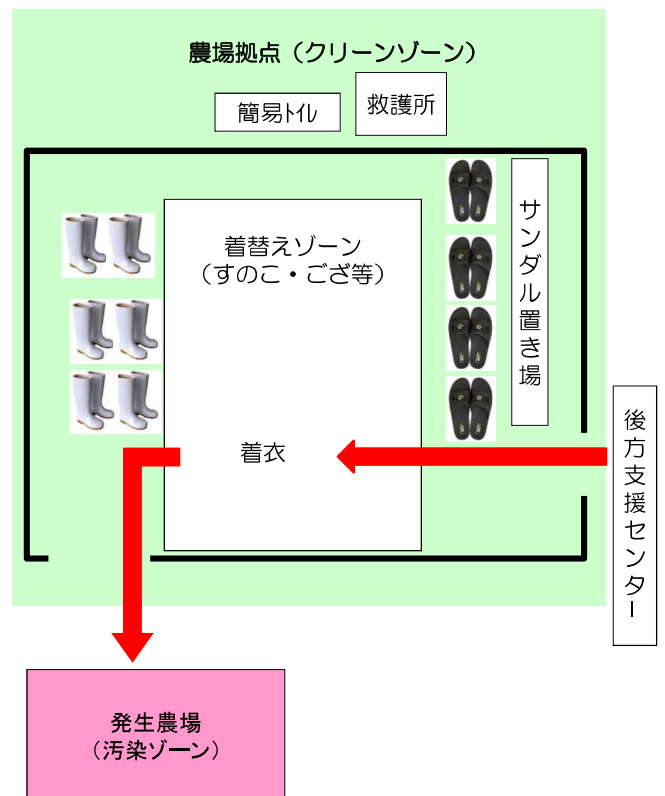
マスク、キャップ、ゴーグル、手袋、長靴等を着用する。



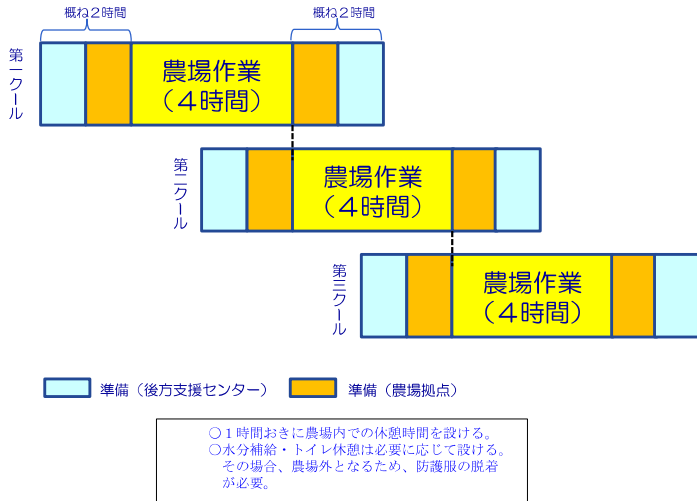
現場見取図（例）



農場への入場手順



防疫作業班作業ローテーション



発生農場での作業

- 1 殺処分作業
- 2 農場清掃・消毒作業
 - 鶏卵の処分（採卵鶏）
 - 飼料の処分
 - 鶏糞除去と鶏舎の洗浄・消毒
 - 農場敷地の消毒（石灰散布）
 - 器具・機材の洗浄・消毒
- 3 埋却作業

1 殺処分作業

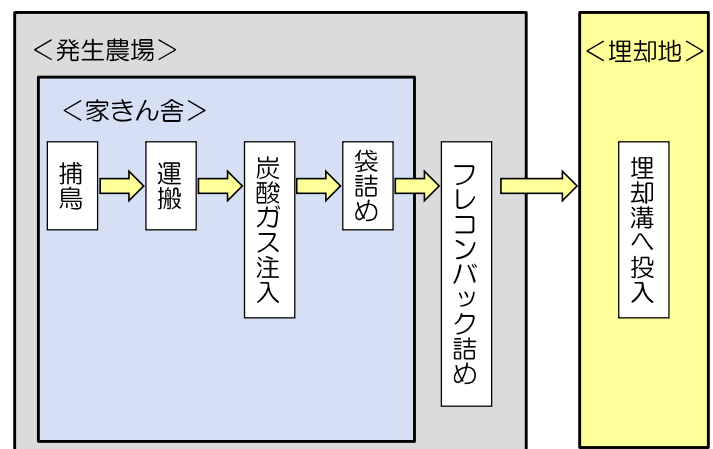
【班編成】

1班25人

- ・ 捕鳥係：6名
- ・ 運搬係：8名
- ・ 炭酸ガス注入係：1名
- ・ 袋詰め係：5名
 - （結紮 2名）
 - （消毒 1名）
 - （搬出 2名）
- ・ フレコンバッグ詰め係：4名
- ・ 搬出補助係：1名

※ 羽数規模に応じて、1～4班を編成
4時間連続作業（適宜、農場内での休憩時間を設けます。）

殺処分作業の流れ



①捕鳥系の作業（採卵鶏）



ケージから鶏を引き出し、ペール缶に収容（10羽）

② 運搬系の作業（採卵鶏）



ペール缶に収容（10羽）した鶏を台車で炭酸ガス注入場所まで運搬

③炭酸ガス注入系の作業



ペール缶と蓋の隙間から炭酸ガスを注入（5秒間以上）
鶏は、ガス注入後約1分で死亡

④袋詰め系の作業



殺処分した鶏を必ず10羽ずつビニール袋に入れる。袋の口を結紮後、消毒し搬出

①捕鳥系の作業（肉用鶏）



コンバネで囲いを作り捕鳥する。
ペール缶に収容（10羽）

②運搬系の作業（肉用鶏）



ペール缶に収容した鶏を台車で炭酸ガス注入場所まで運搬

⑤フレコンバッグ詰め系の作業



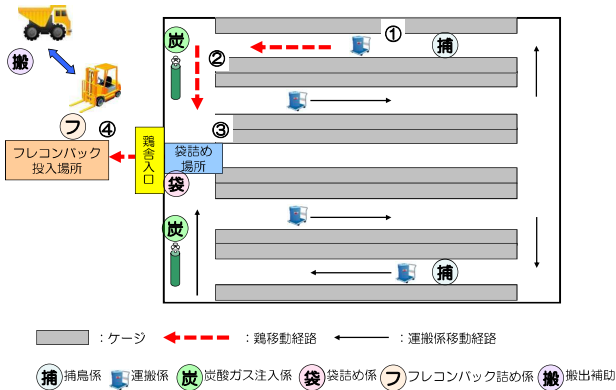
フレコンバッグに死亡鶏を10羽収容したビニール袋を15袋投入（投入羽数は記録を作成のこと）

殺処分羽数の記録 記載例

殺処分羽数報告書（第1陣、2）		クール	
対象業者・方法	鶏	1係白色の羽数	
ステージ種	採卵種、CH	10羽	
鶏舎番号	3号鶏舎	（鶏舎中）	（殺処分終了）
正務者・所属	〇〇株式会社A課	氏名	〇〇 〇〇
発出日時	〇月〇日〇時〇分		
正	正	正	正
正	正	正	43
55	60	65	70
130	135	140	145
155	160	165	170
175	180	185	190
195	200	205	210
215	220	225	230
235	240	245	250
255	260	265	270
275	280	285	290
295	300	305	310
315	320	325	330
335	340	345	350
355	360	365	370
375	380	385	390
395	400	405	410
415	420	425	430
435	440	445	450
455	460	465	470
475	480	485	490
495	500	505	510
515	520	525	530
535	540	545	550
555	560	565	570
575	580	585	590
595	600	605	610
615	620	625	630
635	640	645	650
655	660	665	670
675	680	685	690
695	700	705	710
715	720	725	730
735	740	745	750
755	760	765	770
775	780	785	790
795	800	805	810
815	820	825	830
835	840	845	850
855	860	865	870
875	880	885	890
895	900	905	910
915	920	925	930
935	940	945	950
955	960	965	970
975	980	985	990
995	1000	1005	1010

※ 1時間ごとに班長へ提出

作業配置図（参考：ケージ飼養）



⑥搬出補助系の作業

（フレコンバック詰め係も協力）



フレコンバックをトラックへ積載する際の補助（ブルーシートかけ等）



クレーン作業時の安全確認補助（フレコンバックの積み込みはクレーンで実施）

2 農場清掃・消毒班

【班編成】

1班25人（殺処分作業終了後に農場清掃・消毒班へ移行）

鶏舎施設の構造や、内部の状況（鶏糞の量等）によって、各種作業を分担して行います。

【作業時間】

4時間連続作業（適宜、農場内での休憩時間を設けます。）

○鶏卵の処分

自動集卵装置付き農場



鶏卵トレイ

作業分担の一例（状況に応じ変動）

- コンテナ詰め係：6名
- 集卵もれ確認係：2名
- フレコンバック詰め係：4名

- コンテナ詰め係は、自動で集まってきた鶏卵を農場の鶏卵専用トレイに詰め、トレイをコンテナに収容する。
- 集卵もれ確認係は、ケージ等に引っ掛かって自動集卵されない鶏卵を集卵ベルトの上に乗せる。
- フレコンバック詰め係はトレイの数量で鶏卵数を記録し、トレイから鶏卵を取り出しポリ袋（二重）に入れ、結束バンドで封をする。
- ポリ袋の表面を消毒後、鶏舎出口でフレコンバックに収容する。



○飼料の処分（飼料タンク）



排出口

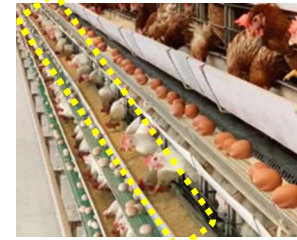
作業分担の一例

タンク一基当たり2名（状況に応じ変動）

- 飼料タンク排出口下にフレコンバックを設置
- 排出口から飼料を出し、フレコンバックに受け入れる。
- タンク下からフォークリフト等で引き出し可能な容量にとどめる。
- フォークリフト等により飼料タンク下から引き出す。

※飼料タンク下部と地面との距離が狭い場合は、フレコンバックはタンク下ではなく、タンク下から離れた場所にフレコンバックスタンドにより設置し、コンテナ等で一旦受けて、フレコンバックに投じる。
この場合はタンク1基当たり3名。（状況に応じ変動）

○飼料の処分（飼槽残り餌）



※ 殺処分完了後に行います。

鶏舎の規模に応じて必要な人員を配置する。

○飼槽に残った飼料を手作業で床にこぼす。
こぼした飼料は、鶏糞と一緒に搬出する。

自動集卵装置なし農場（手作業）

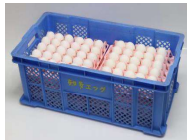


鶏卵トレイ

作業分担の一例（状況に応じ変動）

- コンテナ詰め係：6名
- フレコンバック詰め係：4名

- コンテナ詰め係は、ケージ前の鶏卵を手作業で回収し専用トレイに詰め、トレイをコンテナに収容する。（農場備え置き飼料の内容により対応が異なる）
- コンテナ詰め係は、鶏卵を回収しながら、台車で鶏舎出入口まで運搬する。
- フレコンバック詰め係はトレイの数量で鶏卵数を記録し、トレイから鶏卵を取り出しポリ袋（二重）に入れ、結束バンドで封をする。
- ポリ袋の表面を消毒後、フレコンバックに収容する。



○鶏糞除去と鶏舎の洗浄・消毒

鶏糞除去（低床式鶏舎）



○農場所有の機械を有効に活用する。

○農場従業員にも積極的に防疫作業に対応してもらおう。

○また、機械操作資格者を有する農林関係職員も機械操作を行う。

○機械だけでは除去できない、ケージ下等については、かき板、スコップ等による人力の作業が必要になる。

※そのまま石灰を散布し、ブルーシートで覆い堆肥化させることも防疫指針では認められている。状況に応じ堆肥化処理も検討。



○鶏糞除去

フレコンバック投入



○フレコンバックへの投入が効率的にできるようフレコンバックスタンドを備蓄済み。

○ローダーバケットからフレコンバックへ投入する際のかき出し作業、またこぼれた鶏糞の回収作業が必要。

※農場敷地内に埋却地がある場合には、フレコンバックに収容せず、そのままトラック荷台に直積み搬送し、埋却溝へ投入する。（状況を見て判断する。）

状況に応じて人員を配置

- ・かき板係
- ・スコップ係
- ・竹箒係

鶏糞除去（低床式鶏舎）



作業分担の一例（状況に応じ変動）

- ・かき板係：6名
- ・スコップ係：6名
- ・竹箒係：3名
- ・一輪車係：3名

○かき板係及び竹箒係は、鶏舎に残った鶏糞をかき集める。

○スコップ係は、かき集めた鶏糞を一輪車に乗せる。

○一輪車係は、鶏舎入口に鶏糞を運搬する。

○鶏糞除去

（肉用鶏鶏舎）



○農場所有の機械を有効に活用する。

○農場従業員にも積極的に防疫作業に対応してもらおう。

○また、機械操作資格者を有する農林関係職員も機械操作を行う。

○かき板、スコップ、竹箒等で残りを除去する。

状況に応じて人員を配置

- ・かき板係
- ・スコップ係
- ・竹箒係

○フレコンバックに収容する。
※農場敷地内に埋却地がある場合には、フレコンバックに収容せず、そのままトラック荷台に直積み搬送し、埋却溝へ投入する。（状況を見て判断する。）
※そのまま石灰を散布し、ブルーシートで覆い堆肥化させることも防疫指針では認められている。状況に応じ堆肥化処理も検討。（堆肥舎内の堆肥についても同様の方法を検討。）

○鶏糞搬出（堆肥舎内の堆肥を含む）



○埋却地が農場敷地外の場合は、搬送中の漏出を防止するためフレコンバッグに収容するか、直積みする場合は、荷台にブルーシートを設置し、鶏糞を下から包み込むようにバックする。

○スコップ係及び竹箒係は、重機で鶏糞をトラック荷台に積込む際にこぼれた鶏糞を集める。

作業分担の一例（状況に応じ変動）

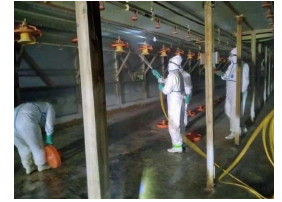
- ・ブルーシート係：2名
- ・スコップ係：3名
- ・竹箒係：2名



○埋却地が養鶏農場敷地内にある場合は、ダンプトラックに直積みし搬送する。



○鶏舎の洗浄・消毒 （肉用鶏鶏舎）



○動力噴霧器で床面・壁面にこびりついた鶏糞等に消毒液を散布し、デッキブラシで擦り取る。

○その後、鶏舎内全体（床面・壁面・天井）を十分に消毒する。

状況に応じて人員を配置

- ・動力噴霧器ノズル係
- ・動力噴霧器（ホース係）
- ・デッキブラシ係
- ・水タンク係

●前回の発生時対応の反省を踏まえ、水の確保を図る。



○鶏舎の洗浄・消毒



○動力噴霧器で床面・壁面にこびりついた鶏糞等に消毒液を散布し、デッキブラシで擦り取る。

○その後、鶏舎内全体（床面・壁面・天井）を十分に消毒する。

状況に応じて人員を配置

- ・動力噴霧器ノズル係
- ・動力噴霧器（ホース係）
- ・デッキブラシ係
- ・水タンク係

ノズル係：ノズルをもって消毒薬を噴射し、洗浄・消毒を行う。
ホース係：ノズルにつながるホースの誘導を行う。
デッキブラシ係：床面・壁面にこびりついた鶏糞等を除去する。
水タンク係は：給水ホースが消毒液中に浸かっているかの確認
排水ホースが消毒液タンク内にあるかの確認
消毒薬タンクの交換
水の補給、消毒薬の調整（500倍希釈）

●前回の発生時対応の反省を踏まえ、水の確保を図る。（消火栓の活用等）

（採卵鶏鶏舎）



○農場敷地の消毒（消石灰散布）



○一輪車等で袋詰めの消石灰を運び、適当な場所で開封し袋をひっくり返す。

○山積みになった消石灰を竹箒で広げる。

●省力化のため、石灰散布機を配備。機械と人力による二本立てで作業を行う。



○器具機材の洗浄・消毒



○殺処分、清掃・消毒で使用した器具機材を動力噴霧器、デッキブラシ、たわし等を用いて清掃・消毒を行う。（建設業協会にて調達した機械類は除く。）

3 埋却地班

組織体制：埋却地班

役割	所属	飼養規模		作業時間 クール
		9万羽以下	9万羽超え	
土木班長	県 (農業土木職)	1名	1名	8時間
衛生班長	県(家保)	1名	1名	8時間
現場管理係	建設業協会	1名	1名	8時間
掘削係	建設業協会	4名 (OP2、玉掛技能2)	6名 (OP3、玉掛技能3)	8時間
搬出積込係	建設業協会	3名	3名	8時間
埋却補助係	県	4名	4名	4時間
車両消毒係	県	2名	2名	4時間

※記載の人数は参考であり、先遣隊の事前調査結果を踏まえて決定する。

※埋却地が農場から離れた場所に位置する場合は、別途搬送業務（トラック輸送）が必要となる。

※車両消毒係は、埋却地が農場敷地外にある場合に配置する。

※埋却補助・消毒係の作業は、埋却掘削後の作業となることから、概ね防疫作業開始から8時間後（第3クール）からの動員とする。

※埋却補助係の人数は、建設業協会と協議のうえ、必要に応じ増員する。

埋却溝への石灰散布



ブルーシートの設置前後に
消石灰を埋却溝へ散布

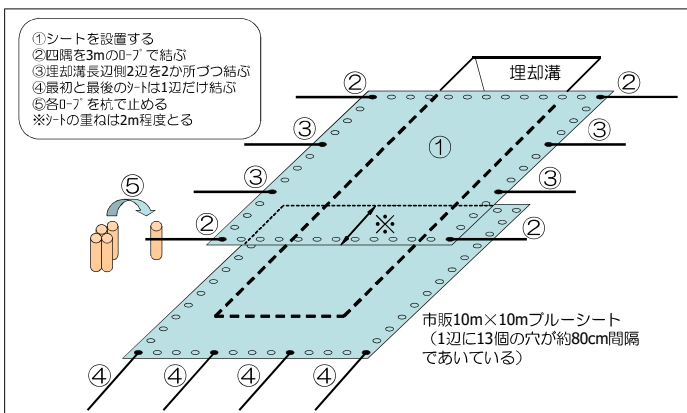
埋却作業全体の流れ及び分担

流れ	作業項目	埋却係	埋却補助・消毒係	車両消毒係
	組織担当	建設業	振興局	振興局
1	作業確認、打合せ	○	○	○
2	防疫フェンス設置（必要な場合）	○		
3	重機の搬入	○		
4	埋却溝掘削作業	○		
5	埋却溝への石灰散布	○	○	
6	ブルーシートの設置		○	
7	埋却溝への石灰散布	○	○	
8	（運搬車両の入場時消毒）			随時
9	殺処分家畜投入作業	○	○	
10	汚染物品投入作業		○	
11	（運搬車両の退場時消毒）			随時
12	ブルーシートの投げ入れ	○	○	
13	埋却溝への石灰散布	○	○	
14	埋め戻し作業	○		
15	埋却地全体への石灰散布作業	○	○	
16	撤収作業	○	○	○
17	全作業終了後車両、重機等の消毒	○	○	○
18	作業員の全身消毒、退場	○	○	○

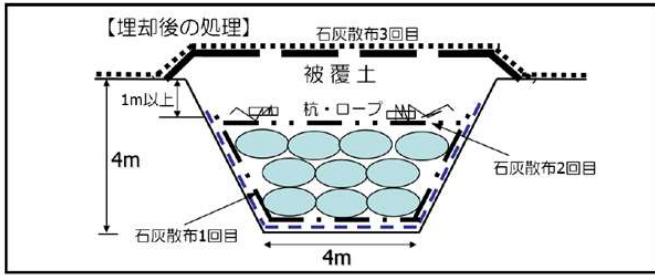
殺処分家畜投入作業



埋却溝へのブルーシート設置



農場からの退場手順



- ブルーシートの投げ入れ、シートを留めていた杭を引く抜き、埋却溝へ投げ入れる。
- 埋却地への消石灰散布、重機による散布後、竹ぼうき等で均一に拡げる。重機で散布できない場所は、手作業での散布となる。



農場拠点



- ① 農場拠点に入る前に、再度全身消毒を受ける。
- ② 保健所の指導に従い脱衣 ※ゴーグル、長靴は再利用のため指示された場所に返却
- ③ 手洗いを実施
- ④ 新しい防護服（移動用）に着替える。
- ⑤ サンドルに履き替え退場

(バス等で移動)

後方支援センター



- ① 受付で確認を受ける。
- ② 預けた荷物を受け取り、着てきた衣服に着替える。
- ③ 必要に応じ医師の診察 ※防護服着脱が不適の場合、医師の診察後、タミフルの予防的投与
- ④ 帰宅

自宅・職場等

・衣類の洗濯、入浴（特に入念に洗髪）を行う。

防疫作業従事者のみなさまへ

○後方支援センターへは、作業着または運動着等で行けるように、日頃から準備をお願いします。

また、従事者が個々に準備するものではありませんが、各自必要に応じ、帰宅時用の着替えの用意をお願いします。

なお、冬季には、厚手の靴下等の準備をお願いします。

*農場内に持ち込んだ物は、汚染物品として処分されますので、農場内に個人の物（携帯電話等）は持ち込めません。

○作業にあたっては、班長の指示に従ってください。

○防疫作業従事者は、原則として、作業後7日間は発生農場以外の鳥類（農場、動物園、学校等）に接触しないで下さい。

農場拠点での防護服等の着衣手順

①ヘッドキャップを着用する



※髪の毛が出ないようにする

②防護服を着る
(最初後方支援センター)



完成

③マスクを着用する



※隙間ができないようにする

④フードを被る



※喉元に隙間ができないようにする

⑤ゴーグルを着用する



※曇り止めを使用する

⑥インナー手袋を装着する



※作業服の袖を中に入れ、防護服の袖は外に出す

⑦アウター手袋を装着し、布ガムテープで防護服と固定する



※ガムテープははがしやすいように、端を折り返しておく

※隙間ができていないか、よく確認する

⑧長靴をはく



※作業服の裾を靴下の中に入れ、防護服の裾は、長靴の外側に出す

⑨布ガムテープで固定する



※膝のゆとりを確保しておく

※ガムテープははがしやすいように、端を折り返しておく

⑩首元でマスク防護服との隙間があれば、布ガムテープで固定する



作業準備は完了

作業後の防護服等の脱衣手順

全身噴霧、長靴消毒後、ライン方式での脱衣。介助者が手伝います。

①手指を消毒する



②長靴のゴムテープを外し、防護服の裾を切ってもら



③アウター手袋を外してもら



④ゴーグルを外してもら



⑤防護服を脱がしてもら



⑥マスクとヘッドキャップを外してもら



⑦インナー手袋を外し、手洗い・うがいをする



問診票の提出は原則、長崎県電子申請システムの「鳥インフルエンザ防疫作業従事者問診票」により提出して下さい。
 下記アドレス、又は右のQRコードからサイトに入ることができます。防疫作業従事開始の3時間前までに入力を行って下さい。
 スマホやパソコンなどインターネット環境がない方、〆切り時間までに電子申請システムの入力を忘れた方はこの用紙に記載し提出下さい。

QRコード



(サイトアドレス) https://apply.e-tumo.jp/pref-nagasaki-u/offer/offerList_detail?tempSeq=4093

様式 7

鳥インフルエンザ健康調査問診票

No. _____ -

従事班名

担当者が
チェック

この問診票は、可能な限り健康調査会場に到着する前に記入・体温測定をして下さい。
 太枠の中のみご本人が記入して下さい。

従事前
従事後

氏名	ふりがな	性別	所属
		男・女	
生年月日	昭和・平成・() 年 月 日(満 才)	自宅()	携帯()

質問

鳥インフルエンザについての説明文(別紙)を読みましたか	はい	いいえ(必須)
今日、体の具合で悪いところがありますか 病状()	いいえ	はい
1週間以内にインフルエンザにかかりましたか	いいえ	はい
1週間以内に家族でインフルエンザにかかった人がいますか	いいえ	はい
現在、タミフルを服用していますか	いいえ	はい
以前、タミフルを服用して副作用(ショックなど)がでたことがありますか	いいえ	はい
医師から重度の肉体的労働を止められていますか。	いいえ	はい
ぜん息(呼吸器疾患)、免疫不全。心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患などにかかっているもしくはかかったことがありますか 病名()	いいえ	はい
上記の病気以外に、現在、何か病気がかかっており、定期的に通院し、治療(投薬)または経過観察をしているか、病状が不安定である 病名()	いいえ	はい
アルコール過敏症といわれたことがありますか	いいえ	はい (消毒注意)
女性の方にうかがいます。現在妊娠していますか	いいえ	はい
その他健康状態のことで伝えておきたいことが、あれば具体的に記入ください。		

検温
血圧
診察

事後血圧
健康調査会場に集合する前に自宅など検温できる方は測定し記入

体温	度 分	血圧	/ mmHg
問診メモ			
診察省略	可 ・ 否	問診者名	
診察【医師記入欄】			
防疫作業従事	鶏舎内作業可 ・ サポート可 ・ 否		
(所見・判断理由など)			
PPEメモ	医師名		

防疫作業中の体調不良の有無	無 ・ 有()
PPEの破損等の状態	良 ・ 不良()

体温	度 分	血圧	/ mmHg (事前診察有・体調不良者のみ)
問診メモ			
診察省略	可 ・ 否	問診者名	
診察【医師記入欄】			
(所見)			
(指示内容)			
医師名			
タミフルの予防内服に同意しますか	はい ・ いいえ	ご本人のサイン	
タミフル処方	処方なし ・ 処方あり		
R p . タミフルカプセル75mg 1c p 1日1回 10日分	医師名		

最終
チラシ
体温記録

本日分タミフルは飲みました。 また、残り9日分を受け取りました。	ご本人のサイン
調剤日：(元号) 年 月	薬剤師名

様式2 体温記録用紙（個人配布用）

《 体 温 記 録 用 紙 》

- * インフルエンザ(H5N1)観察期間は最長でも10日間です。
- * 接触があった日から10日間、38度以上の急な発熱や急性呼吸器症状がなければ、ほぼ感染はなく、もちろん他への感染力もないと思われます。
- * 気になる症状が現れたときには、速やかに最寄りの保健所にご連絡ください(☆)。
- * なお無症状であり、かつ(☆)を確実にお守りいただけるという同意のもとで、多くの方について、この期間も通常通りの生活が可能です。しかし不急不要な外出等は控えていただき、注意深くご自身の健康チェックをされるようお願い致します。

氏名		自宅住所:
所属	自宅電話:() -	携帯電話:() -

接触日より	日付	測定時間	体温(℃)	予防内服	症状(咽頭痛・咳・呼吸困難・下痢・嘔吐・腹痛等)	備考欄(行先等)
接触日	月 日	朝 :		□有 □無	□なし □あり()	
		夕 :			□なし □あり()	
接触後1日目	月 日	朝 :		□有 □無	□なし □あり()	
		夕 :			□なし □あり()	
接触後2日目	月 日	朝 :		□有 □無	□なし □あり()	
		夕 :			□なし □あり()	
接触後3日目	月 日	朝 :		□有 □無	□なし □あり()	
		夕 :			□なし □あり()	
接触後4日目	月 日	朝 :		□有 □無	□なし □あり()	
		夕 :			□なし □あり()	
接触後5日目	月 日	朝 :		□有 □無	□なし □あり()	
		夕 :			□なし □あり()	
接触後6日目	月 日	朝 :		□有 □無	□なし □あり()	
		夕 :			□なし □あり()	
接触後7日目	月 日	朝 :		□有 □無	□なし □あり()	
		夕 :			□なし □あり()	
接触後8日目	月 日	朝 :		□有 □無	□なし □あり()	
		夕 :			□なし □あり()	
接触後9日目	月 日	朝 :		□有 □無	□なし □あり()	
		夕 :			□なし □あり()	
接触後10日目	月 日	朝 :		□有 □無	□なし □あり()	
		夕 :			□なし □あり()	

問い合わせ・返信先

保健所名:

住所:

電話:

FAX: